

クォーター制を導入した早稲田大学経済学研究科の5年一貫博士プログラム  
および経済ジャーナリズムコースについて

2013年4月、経済学研究科では、「クォーター制」(注1)を本格的に導入することによる学術研究者育成プログラム「5年一貫博士プログラム」をスタートさせます。

このプログラムでは、これまで積み上げ式の教育のため通常のセメスター制では3~4年間かかるとされてきた大学院レベルの経済学を、早稲田大学が導入を推進している「クォーター制」を活用することで約半分の1年半から2年の期間で履修することを可能にしており、5年間以内に経済学博士号の取得できる可能性をより高めることを目的としたカリキュラム体系に編成しております。特に、論文執筆の準備を始める前までに「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「ゲーム理論」「経済数学」「計量経済学」「政治経済学」「総合演習」を中心に幅広い素養を修得させ、特定の分野のみに偏重せず、長期的に社会のニーズに応え得る柔軟性の高い研究者として育成することに力点がおかれています。

早稲田大学ではこれまで大学院レベルは修士課程と博士後期課程の二つ段階の課程に分けて設置されてきましたが、2014年度以降に一部の研究科にて5年一貫の博士課程設置をすすめる予定です。経済学研究科でも博士課程の設置についてプログラムの反響をみて導入を検討する予定です。

さらに、経済学研究科では、高度専門職業人育成の観点から「経済ジャーナリズムコース」を2013年4月より同時にスタートさせることにしております。経済学の知見と分析手法に長け、経済報道等の分野で活躍しうる人材を養成するカリキュラムを編成し、マスコミ各社(株式会社日本経済新聞社、株式会社ダイヤモンド社、株式会社東洋経済新報社、2013年3月5日現在)の協力を得ながら実務者育成を行います。

経済学研究科では、大学院のカリキュラム編成を、学術研究職育成の観点のみならず高度専門職業人育成という二つの育成する人材像を掲げ、社会的ニーズにあわせたバランスのよいカリキュラムへと再編成しております。

注1：通常通年や半期ごとにわけることが多い大学の1年度間を4学期にわける制度で、通常の半分から四分の一の短期間で完結する授業を実施します。早稲田大学では、教育と研究の国際化をさらに推進するために、段階的に導入を試みている制度です。通年制や半期制に比べて、より柔軟に各国からの学生を受け入れたり各国の大学に学生を派遣することが可能になります。また、在在学生にとっては1学期間(3カ月程度)大学から離れることもできるため、インターンシップやボランティアの参加、短期留学、就職活動への専念などに柔軟な対応が可能になります。